

【話 題】

第13回国際花粉学会議・第9回国際古植物学会議に参加して

近藤 禎二^{*1}

はじめに

国際花粉学会議は、日本花粉学会が加盟している世界組織の大会で、中央大学の後楽園キャンパス（写真-1）で、2012年8月23日から30日まで開催されました。実は、前年の2011年夏に同じ場所で開催を予定していましたが、東日本大震災及び原子力発電所の事故による放射性物質の飛散から間もないということもあり、1年延期しての開催となりました。

私はこの会議の組織委員会の一員として、運営に係わ



写真-1 会場となった中央大学後楽園キャンパス

りましたので、最初に若干の経緯を述べます。開催を延期したものの、組織委員会が一番の懸念は、果たして海外から参加者が多く来てくれるか、という点でした。ヨーロッパからきたレーシングチームがわが国の食材を全く口にせず、着ていた服まで置いて帰った、というショッキングな話を聞いたりしましたし、開催に大変協力いただきました東京都の団体の方も、東京に海外からの参加者がどれくらい来てくれるのかを心配されていました。そういう意味では、試金石となった会議でした。そこで、組織委員会のメンバーは各国の学会に呼びかけたり、出席した海外の大会で宣伝したりしました。その甲斐あってか、ふたを開けてみると、50カ国から514名もの参加者がありました。勿論、一番多いのは日本からの97名でしたが、8割以上が海外からで、20名以上参加があった国は、参加者が多い順に、中国（97名）、アメリカ（49名）、イギリス（28名）、ロシア（28名）、ドイツ（24名）と、世界中からまんべんなく参加していただきました。

会議の概要

会議のテーマは、「環境の世紀における花粉学と古植物学」で、花粉学や古植物学の立場から、地球環境問題や花粉症などに関する最新の成果を持ち寄ろうというものでした。発表件数も多く、全体招待講演5件、専門シンポジウム54件、口頭発表411件、ポスター発表165件ありました。シンポジウムも、早くから申し込みがあり、盛況でした。花粉に関する幅広い内容が取り扱われ、現世の花粉から化石花粉まで、気候変動、進化、植生との関係、アレルギーとの関係などがテーマでした。分野別に大きく分けると、植物学的なものとはアレルギー関係に分かれますが、アレルギー関係についてはヨーロッパで同様の会議があった影響もあり、植物学の分野に比べて少ない参加者でした。私は日本花粉学会長の佐橋

* E-mail: kontei@affrc.go.jp

¹ こんどう ていじ 森林総合研究所林木育種センター

紀男先生と富山県立医大の寺西秀豊先生がチェアを務められた「Recent airborne allergenic pollen and spore research: phenological trends in different locations」というセッションで「スギ花粉症に対応した林木育種」という表題で発表しました。また、北海道育種場の福田陽子さんはスギの主要アレルゲンCry j 1のスギ精英樹の中の遺伝変異についてポスター発表されました。

本会議のテーマに関連した次の3つの市民公開講座も開催されました。そのテーマは、「東アジア植物考古学の革新」、「花粉症とのたたかいかー花粉情報はどのように作られ提供されているかー」、「いま、植物化石が面白い！ー植物の化石から探る進化、地球環境、人との関わり」、でした。花粉症関係はいつも聞いているので、植物化石の公開講座に参加しました。中には中学生の参加もあり、専門的な話を大変分かり易く聞けて好評でした。特に印象的だったのは、英国ニューカッスル大学の中川 毅教授が、花粉分析から古代からの気候変動を推定し、それに対して近年の気温上昇は異常だとされた講演でした。

ー研究に関係の深い会議ですので、興味のある方の参加を期待します

催し物など

会議の会場となった中央大学後楽園キャンパスは、理工学部があるところで、地下鉄の後楽園駅から徒歩で数分のところにある交通至便な場所にあり、ほとんどの参加者が迷うことなく行き来でき、空港からのアクセス、買い物など、参加者には満足してもらえました。会場では、開催地である中央大学の西田治文教授のお知り合いの茶道と華道の先生にお茶とお花の講習会をやっていたところ大人気で、男女を問わず真剣に取り組んでいました。懇親会は椿山荘で行いました。料理の出し方に若干問題がありましたが、会場が素晴らしく立派で、浅草の舞妓さんに来てもらい、踊りとお話しのお相手をしてもらったのは好評でした。海外からの参加者には、日本に来てよかった、と思ってもらったと思います。

おわりに

この会議は4~5年に1回のペースで開催され、最近では2つの会議の合同として開催されています。次回の国際花粉学会議はブラジルの保養地で開催されることが決まりましたが、国際古植物学会議が合同にすることについてビジネスミーティングで決めるに至らず、後日結論が出るとのことでした。樹木の系統地理学的研究やアレルギ